



平成23年9月21日

各 位

上場会社名 近畿日本鉄道株式会社
代表者名 取締役社長 小林 哲也
コード番号 9041
上場取引所 東京・大阪・名古屋（第1部）
問合せ先 総合企画部長 藤下 修
(TEL 06-6775-3427)

連結子会社（株式会社近鉄百貨店）の特別損失計上および
平成24年2月期業績予想の修正に関するお知らせ

当社の連結子会社である株式会社近鉄百貨店は、別添資料1のとおり同社の平成24年2月期第2四半期累計期間において特別損失を計上することとし、また別添資料2のとおり平成23年4月12日に公表した平成24年2月期第2四半期累計期間および通期の業績予想を修正しましたので、お知らせいたします。

なお、これによる当社の平成24年3月期第2四半期連結累計期間および通期の連結業績に与える影響につきましては、本日別途公表しております「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

以 上

平成 23 年 9 月 21 日

各 位

会 社 名 株式会社近鉄百貨店
代表者名 代表取締役社長執行役員 飯田 圭児
(コード番号：8244 大証第 1 部)
問合せ先 取締役常務執行役員 福田 正男
(TEL 06-6634-7265)

経営構造改革実施とそれに伴う特別損失計上に関するお知らせ

当社は、本日開催の取締役会において、経営構造改革に係る諸施策の実施を決議いたしました。これに伴い、平成 24 年 2 月期第 2 四半期決算（連結・個別）において下記のとおり経営構造改革費用を特別損失として計上いたしますので、お知らせいたします。

記

1. 構造改革施策と経営構造改革費用の内容

(1) 店舗の閉鎖等

・枚方店の閉鎖

枚方店は、昭和 50 年 4 月の開業以来 36 年余にわたり地域のお客様のご愛顧、ご支援をいただき今日まで営業を続けてまいりましたが、売上高はここ 10 年間で半減しており、当社としても様々な営業努力を重ねてきたものの、消費環境の悪化と競合の激化がさらに進む中、同店の今後の業績改善は難しいものと判断し、平成 24 年 2 月末をもって閉鎖することを決定いたしました。

・桔梗が丘店の業態変更

桔梗が丘店については、平成 13 年 9 月の開業以来、10 年間にわたりご愛顧いただき、当社においても様々な営業努力を重ねてまいりましたが、近隣地区の大型量販店との競合等により収支が悪化しており、現行の営業体制では改善の見込みがないことから、平成 24 年 3 月以降、百貨店業態としての業務運営からは撤退し、一部フロアのみでの運営管理へと当社の事業規模を大幅に縮小することといたしました。

(当社営業面積：現況 約 14,000 m² → 約 5,500 m²)

これらの実施により、平成 24 年 2 月期第 2 四半期連結決算において、枚方店で土地建物の減損損失等 42 億 25 百万円、桔梗が丘店で建物設備の減損損失等 4 億 2 百万円、合計 46 億 27 百万円を特別損失として計上いたします。また、同期の個別決算においても、枚方店で土地建物の減損損失等 42 億 51 百万円、桔梗が丘店で建物設備の減損損失等 4 億 4 百万円、合計 46 億 55 百万円を特別損失として計上いたします。

<枚方店の概要>

- ・所在地 大阪府枚方市岡東町 12-2-101
- ・建 物 鉄骨鉄筋コンクリート造
地下1階、地上7階建、延 18,123 m²
- ・開業 昭和 50 年 4 月
- ・営業面積 12,807 m²
- ・年間売上高 8,125 百万円 (平成 22 年度)
- ・従業員数 174 名
(平成 23 年 8 月 31 日現在、パートタイマー等 93 名を含む。)

<桔梗が丘店の概要>

- ・所在地 三重県名張市桔梗が丘 1 番町 1 街区 2 番 1 ほか
- ・建 物 (店舗) A 館 鉄筋コンクリート造
地上 3 階建、延 17,529 m²
B 館 鉄筋コンクリート造
地上 2 階建、延 7,223 m²
- ・賃借先 近畿日本鉄道株式会社
- ・開業 平成 13 年 9 月
- ・営業面積 約 14,000 m²
- ・年間売上高 4,039 百万円 (平成 22 年度)
- ・従業員数 62 名
(平成 23 年 8 月 31 日現在、パートタイマー等 42 名を含む。)

(2) 和歌山近鉄会館の閉鎖

和歌山近鉄会館は、和歌山店の文化サロンや当社事務所等が入居する建物ですが、建築後 53 年を経過し建物の老朽化が進んでいるため、来年春を目途に建物解体工事に着手する予定であります。同建物の解体に伴い、平成 24 年 2 月期第 2 四半期 (連結・個別) 決算において土地建物の減損損失等 30 億 74 百万円を特別損失として計上いたします。

<近鉄会館の概要>

- ・所在地 和歌山市友田町 5 丁目 46 番地ほか
- ・建物 鉄筋コンクリート造
地上 5 階建、延床面積 8,526 m²
- ・開業 昭和 33 年 (昭和 41 年増築)
- ・用途 文化サロン、飲食店舗、当社事務所ほか

(3) 当社および連結子会社の減損損失等

当社桃山店につきまして、資産評価の見直しに伴い、平成24年2月期第2四半期連結決算において減損損失等7億23百万円を特別損失として計上いたします。また、同期の個別決算においても減損損失等7億33百万円を特別損失として計上いたします。

次に、連結子会社の株式会社ジャパン・シーフーズにおきましても、事業の再構築に伴い、平成24年2月期第2四半期連結決算において土地建物の減損損失等11億73百万円を特別損失として計上いたします。これに関連して、同期の個別決算において関係会社株式評価損等11億61百万円を特別損失として計上いたします。

(4) その他

上記の店舗閉鎖等による事業規模の縮小に備え、より運営効率の高い組織体制への移行を円滑に図るために、当年度中に希望退職者の募集を行うとともに、退職年金制度の見直しを実施することで、一層の経費圧縮を進めてまいります。

2. 業績に及ぼす影響

上記のほか、経営構造改革を実施するうえで要した諸費用等を含めて、平成24年2月期第2四半期連結決算において98億86百万円を、個別決算において99億12百万円をそれぞれ特別損失として計上いたします。また、平成24年2月期決算（連結・個別）におきましても相当額の特別損失が発生する見込みではありますが、平成24年2月期通期の業績見通しにつきましては、本日発表の「業績予想（連結・個別）の修正に関するお知らせ」に記載のとおりであります。

なお、以上の施策による来年度以降平年度ベースでの収支改善効果は、同じく本日発表の「新・中期経営計画の策定について」に記載の経費構造改革による事業運営効率の向上のための諸施策と合わせまして約20億円を見込んでおります。

(以 上)



平成 23 年 9 月 21 日

各 位

会 社 名 株式会社 近 鉄 百 貨 店
 代 表 者 名 代表取締役
 社長執行役員 飯 田 圭 児
 (コード番号 8 2 4 4 大証第 1 部)
 問 合 せ 先 取締役
 常務執行役員 福 田 正 男
 (TEL. 0 6 - 6 6 3 4 - 7 2 6 5)

当社の親会社 近畿日本鉄道株式会社
 代 表 者 名 取締役社長 小 林 哲 也
 (コード番号 9 0 4 1 東証・大証・名証 第 1 部)

業績予想 (連結・個別) の修正に関するお知らせ

最近の業績動向ならびに本日公表いたしました経営構造改革に伴う特別損失計上等を踏まえ、平成 23 年 4 月 12 日に公表した平成 24 年 2 月期 (平成 23 年 3 月 1 日～平成 24 年 2 月 29 日) の第 2 四半期累計期間および通期の業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせします。

記

1. 連結業績予想数値の修正について

(1) 第 2 四半期連結累計期間 (平成 23 年 3 月 1 日～平成 23 年 8 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1 株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	140,000	800	400	400	1.45
今回修正予想 (B)	141,000	1,000	800	△9,900	△36.01
増減額 (B - A)	1,000	200	400	△10,300	
増減率 (%)	0.7	25.0	100.0	—	
(ご参考) 前年同期実績 (平成 23 年 2 月期第 2 四半期)	143,727	898	702	304	1.11

(2) 通期 (平成 23 年 3 月 1 日～平成 24 年 2 月 29 日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	290,000	2,900	1,800	1,500	5.46
今回修正予想 (B)	291,000	3,000	1,900	△13,100	△47.65
増減額 (B - A)	1,000	100	100	△14,600	
増減率 (%)	0.3	3.4	5.6	—	
(ご参考) 前期実績 (平成 23 年 2 月期)	295,763	3,092	2,310	1,796	6.53

2. 個別業績予想数値の修正について

(1) 第2四半期累計期間（平成23年3月1日～平成23年8月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想（A）	130,000	700	200	300	1.09
今回修正予想（B）	130,000	800	300	△10,200	△37.10
増減額（B－A）	0	100	100	△10,500	
増減率（％）	0.0	14.3	50.0	－	
（ご参考）前年同期実績 （平成23年2月期第2四半期）	134,139	680	192	234	0.85

(2) 通期（平成23年3月1日～平成24年2月29日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想（A）	269,000	2,400	1,200	1,200	4.36
今回修正予想（B）	269,000	2,500	1,300	△13,500	△49.10
増減額（B－A）	0	100	100	△14,700	
増減率（％）	0.0	4.2	8.3	－	
（ご参考）前期実績 （平成23年2月期）	275,687	2,536	1,523	1,558	5.67

3. 業績予想修正の理由

当社グループでは、依然として厳しい経営環境のもと、各種経費の削減に鋭意取り組んでおり、当初の予想を上回る見通しとなったことから、連結および個別の第2四半期累計期間および通期の業績予想を修正するものであります。

また、既にお知らせしております投資有価証券評価損の計上に加えまして、本日発表いたしました「経営構造改革実施とそれに伴う特別損失計上に関するお知らせ」に記載しておりますとおり、同じく本日発表の「新・中期経営計画」を達成するべく、抜本的な収支改善のための店舗の一部閉鎖や事業運営効率を向上させるための子会社の再構築等を実施するにあたって、固定資産の減損損失などの経営構造改革費用等を特別損失として計上いたします。これにより、連結および個別の当期純利益が予想数値を下回る見通しとなったことから修正するものであります。

以 上

※上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報および将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料発表日現在における仮定を前提としています。実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。